



# 2025年度 須磨学園中学校入学試験

## 国 語

### 第 2 回

#### (注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
3. 解答は、1行の枠内に2行以上書いてはいけません。また、字数制限のある問題については、記号や句読点も1字と数えることとします。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

須磨学園中学校

□ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

この世界は複雑な関係性のネットワークでできており、仏教の世界ではこれを縁起と呼ぶ。その複雑さにふたをするあらゆるタイドは、世界の複雑さから逆襲を受けることになる。

複雑な世界を複雑なまま受け入れることは、あまりにも難しい。それは人間には認知限界があるからである。もし人間がありとあらゆる膨大な情報を無制限に処理できるのであれば、複雑な世界を複雑なまま扱うことができるかもしれない。だが、ノウという有限のリソースを使っている以上、認知能力には限界がある。複雑なままでは理解できず、理解できないと対応もできない。理解して対応して胸をなでおろすためには、世界を単純なものとしてみなすのは避けようがない。意識とはそもそもそうした目的のためのソウチであり、そうやって認知コストを下けているのである。

責任を誰かに帰すること、すなわち帰責性も同じ理由から要請されている。たとえば交通事故が起きたときに、その原因を遡っていけば、ドウロの設計の問題なのかもしれないし、運転手の問題かもしれない。運転手が意識をそらす理由が歩行者にあったかもしれない。その歩行者がそこにいた理由も別にあるだろう。複雑な世界を複雑なままとらえようとする、責任を一カ所に押し付けることなど到底不可能になってしまう。それでも社会をまわすために事故をボウシするために、誰かに責任を押し付ける必要性が生じてしまう。

ある個人が責任を引き受けようとしたり、あるいは人に責任をとらせようとする、すべての問題は責任をもつ人がどう選択するかという点にかかってくる。そして選択がその人の自由意志で行われないとそもそも責任を問えないので、現実がどうであれ自由意志という幻想が生まれることになる。過剰に要請される自由意志が引き起こすのは、責任を問われたときのことを逆算する思考と、それによる逆説的な選択の狭さである。このようにして責任を押し付けること、引き受けることは、自己と他者の間に境界を引き、自由なき自由意志の感覚を生み出してゆく。

認知コストや対策コストの問題から、私たちは複雑な世界を複雑なまま観ることができず、国境や責任や自由意志を生み出してしまふ。逆にいえば、認知能力や対策能力がノウや技術の進化によつて上がるにしたがつて、単純化の必要性は薄れ、少しずつ世界を複雑なまま扱うことができるようになってくる。人類の文明の歴史とは、いわばそうした複雑化の歴史である。

インターネットやコンピュータの登場は、この認知能力や対策能力を桁違いに増大させる生命史的な機会を提供している。これ

らの情報技術を使って、この複雑な世界を複雑なまま生きることができるような社会をデザインし、その具体的手法のいくつかを提案することが本書の目的である。

注3 アラン・ケイの言葉を借りるならば、「未来を予言する最良の方法は、未来を発明すること」なのである。しかし、そのためには、「敵と味方をクベツする」戦争を人類史からなくすことがいかに困難か、その理由をリアリストの立場から冷徹に分析する必要がある。理想主義者の解決策がいずれも敗北してきたのは、歴史が証明してきたことである。大草原で空を見上げたり、宇宙から国境のない地球を見下ろしたときに、あるいはロックスターのライブに熱狂しながら、人々のマインドさえ変えれば簡単に実現できそうだと思えることが、現実には一度も達成されたことはないのだ。

注4 インターネットとコンピュータが社会に登場してきたのは、ごくごく最近のことである。□、インターネットが発明されたのは一九六九年、コンピュータが発明されたのは一九三六年だが、多くの人々が利用するようになったのは一九九五年以降のこととすぎない。社会的に登場してからわずかな時間しか経っていない。

注5 インターネットは、はたして新たな概念を構築し、力強いシッウを生み出すことができるのだろうか。

(鈴木健『なめらかな社会とその敵』による)

注1 リソース：供給源。資源。

注2 コスト：一般的には「費用」という意味。

注3 アラン・ケイ：アメリカの計算機科学者。

注4 リアリスト：現実主義者。

注5 マインド：心。精神。

1 の設問

問一 ……線部Ⅰ～Ⅲの語句の対義語をすべてひらがなで答えなさい。なお、( ) 内の数字は解答の字数を示しており、小さい「っ」「ゃ」なども一字と数えるものとします。

I 有限(三字)

II 原因(三字)

III 具体(六字)

問二 次の文は、ある偶数番目の形式段落の末尾に書かれていたものです。この文を本文中に戻すとき、最も適当な箇所を探し、挿入直前の五字を書き抜きなさい。なお、句読点は一字と数えます。

その意義づけの作業は、過去に対しても未来に対しても、ただはじまったばかりである。

問三 「帰責性も同じ理由から要請されている」(——線部A)とありますが、「帰責性」が「要請」されるのはなぜですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 責任の所在を明らかにすれば、交通事故をなくすことができるから。
- 2 責任を一カ所に押し付けなければ、人々が暮らしやすい社会の実現は不可能だから。
- 3 責任が誰にあるかを特定することで、事件や事故が完全に解決されたと言えるから。
- 4 責任をとる人がいなければ、事件や事故の被害者が救われないから。

問四 「逆説的な選択の狭さ」(——線部B)とありますが、これはどういうことを言っているのですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自由意志があることによって、選択の責任は誰にあるのかということが曖昧になり、行動の自由が奪われてしまうということ。
- 2 自由意志が存在することによって、責任の所在が明白になる一方で、他者からの監視が厳しくなり、行動の選択の幅が狭まってしまふということ。
- 3 自由意志は、責任という概念と関連して生成されるものであり、責任の存在を人間に意識させるため、個人の行動を縛る側面もあるということ。
- 4 自由意志は、世界を単純化するために生み出された幻想であるため、その内実の矛盾に気づいた人々は行動を自制し始めたということ。

問五 「複雑化の歴史」(——線部C)についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 知力の向上や技術の進化といった文明の発達によって、世界を単純化する必要性はなくなりつつある。
- 2 人類の文明は、本質的に単純なものである世界の「複雑化」を目指して発展したものであるため、「人類の文明の歴史」は「複雑化の歴史」と同義である。
- 3 人類の文明の発達によって、生活は便利になった一方で、世界は複雑化してしまった。
- 4 国境や責任、自由意志といった概念が存在することによって認知コストや対策コストの不足といった新たな問題が発生した。

設問は、裏面に続きます。



問九 次の【資料】は、「責任」という言葉の分類を紹介したものである。

本文中の〓線部に関して、行動を選択した「個人」が引き受ける「責任」は、【資料】中どの「責任」と同じ意味だと考えられますか。最も適当なものを、後の【選択肢】のうちから一つ選び、番号で答えなさい。なお、【資料】は英語表記を省略するなど、一部を抜粋したものです。

【資料】

まず注意しなければならないのは、「責任」という語が様々な意味で用いられているということだ。法哲学者のH・L・A・ハートは、古典的な著作『罪と責任』（1968年）において、船の転覆事故に「責任がある」と言われる船長を例に挙げて、「責任」という語の四種類の意味をクベツしている。

- (1) 役割責任…社会組織における特定の地位・役職（船長）に結びついている義務を果たす責任  
「船長は、航海を指揮し、乗員乗客の安全確保をする責任を負う」

- (2) 因果責任…結果（船の転覆）を引き起こした原因（船長の飲酒・怠慢、異常な嵐）としての責任

「船の転覆の責任は船長の飲酒と怠慢にあったが、船長は船の転覆の責任は異常な嵐にあったと主張した」

- (3) 負担責任…自分がなしたこと・なさなかったことによつて、刑罰や賠償義務や非難を負う責任

- ① 法的責任…刑罰を科されること（刑事）・損害賠償をすること（民事）

- ② 道徳的責任…道徳的な非難を受けること

「刑事訴訟において、船長は自らの過失行為に対して刑事責任があるとされた。それとは別に、民事訴訟において、生命と財産の損失に対して法的責任を負わされた。彼は今でも生きており、たくさんの乗客の死に対して道徳的に責任がある」

- (4) 能力責任…法や道徳がどのような行為を要求するかを理解し、その要求に沿って決定し、その決定に従って行為する正常な判断能力

「多量の飲酒にもかかわらず、航海中、船長には責任能力があったと医者は診断した」

（小手川正二郎）『責任を負うこと』と

『責任を感じること』による

【選択肢】

- 1 役割責任
- 2 因果責任
- 3 負担責任
- 4 能力責任

問十 〓線部 a～g のカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。

- |   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|
| a | タイド | b | ノウ  |
| c | ソウチ | d | ドウロ |
| e | ボウシ | f | クベツ |
| g | シソウ |   |     |

二 次の文章は村田沙耶香『マウス』の一節です。小学生の「私」(律)は、好きな人にチョコレートを渡そうとしている「麗ちゃん」の準備を手伝っていました。本文を読んで、後の設問に答えなさい。

「ねえ、どのチョコがいいかな、アーモンド、好きかなあ。トリュフかなあ」

「別に、気持ちがいればいいんじゃない」

「えー、律ちゃん、真面目に考えてよね。もういいよ、協力してくれないなら、一人でやるから」

麗ちゃんはうっかりするとすぐにそうして機嫌を損ねてしまうので、私はなるべく麗ちゃんを刺激しないような言葉を選ばなくてはならなかった。

人との会話は に似ている、と私は思った。相手の性格や状況などを考えてできるだけ素早くどんな返事が求められているか把握し、的確な返答を考え出すのだ。そう思うと、前ほど難しいことではないような気がした。私は淡々と、答えを埋めていった。

冬休みが終わり、五年生もだんだん終わりにさしかかるころには、私はその単調な作業に随分慣れていた。

バレンタインデーの日、私は麗ちゃんに連れられて彼女の好きな男の子のマンシヨンの下で、彼が来るのをずっと待っていた。

麗ちゃんは、いざとなると、

「やっぱり、無理！」

と言って、私の手をつかんで逃げ出した。結局、私達は麗ちゃんの手作りのトリュフをいっしょに食べながら帰った。麗ちゃんが言った。

「律ちゃんって、ほんとにいい子だね。私、律ちゃんと友達でよかった」

「え、私が？」

麗ちゃんにそう言われることが意外で聞き返すと、麗ちゃんは私の手を握りながら、

「うん。私、お友達の中で律ちゃんが一番好き。優しいし、嫌なこと絶対に言わないし、口も堅いし。これからも仲良くしてね」と言った。私は麗ちゃんの作った甘ったるいチョコレートを口の中で溶かしながら頷いた。

家に帰ると、母が玄関に出てきて言った。

「律、この前の塾のテスト、すごくよかったじゃない」

「そうかなあ」

「とくに社会は、苦手だったのに本当に偉かったわね。今日は、律の好きなもの、何でもつくってあげるわよ」

「いいよ、お母さんも疲れてるんだから、たまには休みなよ。

私、今日は宿題ないんだ。晩御飯、つくってあげるね」

そう言って部屋に鞆を置き、台所に立ってお米をとき始めた私

に、母がしんみりとした様子で言った。

「律は、本当にしつかりした、いい子に育ったわね」

「別に、そんなことないと思うけど。いいから、テレビでも見れば」

「ありがとうね、律」

冷蔵庫から野菜を出しながら、ふと母の方を見ると、目頭を押さえているようだった。

私は、自分がいつのまにか、ワークブックでとてもいい点数をとっていたことを知った。それで、私はワークブックの最後のまとめテストで満点をとったような、おかしな爽快感を得た。ごほうびに、何かしたいことをしてもいいんじゃないか、と私は思った。私は、窓の外の灰色の光景を眺めながら、遠くへ行きたいと思った。見覚えのない景色の中を、少しでもいいから歩きたい。

私は引き出しの中から小さな路線図を取り出した。複雑に絡まった色とりどりの路線の中から、一本、水色の綺麗な直線が延びていつている。その水色の線は、路線図の紙からはみ出して、さらに遠くへと延びていつているようだった。

私は青空を思わせるその水色の路線を人差し指でたどった。これに乗って、どこか遠くへ行きたい。少しだけ、一日だけでいい。両親には心配をかけないように、朝からどこかへ出かけると言えればいい。

そう思うと胸が高鳴った。嘘をついて遠くへ出かけることなど、クラスの進んだ女の子たちは皆やっていることかもしれない。でも両親に嘘をついたことなどなかった。

私の胸は、想像しただけでとても速く鼓動し始めた。

やっぱり私は「マウス」だなあ。そんなことをちよつと思ひ、左手に路線図をしつかりと握り締めながら、私は本棚から英語の辞書を取り出した。

それは英語塾に通い始めた私のために、父が買ってくれたものだった。けれどそれは大きな大人用の辞書で、なかなかうまく使えこなすことができずに本棚に入れっぱなしになっていた。

私はゆつくりとスペルを思い出しながら、分厚い辞書をめくっていった。時間をかけてやっと、「マウス」の欄を見つけることができた。

(mouse。ハツカネズミ、小ネズミ……臆病者。内気な女の子……)

叔父さんの言ったとおりの意味が、そこにもはっきりと書かれていた。私は辞書の文字を目で追いながら、左手の路線図を、もう一度強く握り締めた。

注 叔父さんの言ったとおりの意味：律は、以前に叔父さんから、「マウス」という英単語が持つ意味を覚えてもらったことがある。

二の設問

問一  に入るものを、本文中から十字以内で書き抜  
きなさい。

問二 「私はその単調な作業に随分慣れていた」(——線部A)  
とありますが、ここから考えられる「私」の心情の説明とし  
て最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 麗ちゃんの質問に対して、深く考えずに回答し、相手の機嫌を損ねてしまったこともあったが、練習を重ねた今なら、麗ちゃんとの会話もうまく行えると自信を持っている。
- 2 相手から求められている言葉や反応を考えて行動することに  
に  
退屈さを感じている一方で、人との会話が以前よりも容易  
に  
にできるようになったことには、安心感を抱いている。
- 3 人との会話という難しい作業において、相手を傷つけてしま  
い、それで悩んだことも以前にはあったが、練習を積んだ  
今は淡々とこなすことができるようになり、喜んでいる。
- 4 相手の性格や状況を考えながらも、質問に対して淡々と回  
答することが会話の本質であると気づき、人との会話はそれ  
ほど難しいものではないと思い、満足している。

問三 「甘ったるいチョコレートを口の中で溶かしながら領いた」  
(——線部B)とありますが、この表現から推測できる  
「私」の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一  
つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」は、気持ちが悪くもつていれればどのようなチョコレ  
トでもよいと考えていたが、実際に麗ちゃんが作ったものを  
食べるとおいしくなかったため、よく考えれば良かったとう  
なだれている。
- 2 「私」のことを過剰に高く評価する麗ちゃんの好意を素直  
に嬉しいと思えない一方で、この場面においては相手のこと  
を氣遣って領くのが正解であると思っている。
- 3 麗ちゃんが自分の内面をしっかりと見て「一番好き」と  
言ってくれるのは嬉しいが、麗ちゃんの表現は「甘ったる  
い」ものであったため、恥ずかしさを覚え、うまく反応でき  
ないでいる。
- 4 麗ちゃんの作ったチョコレートは、極端に甘く、おいしい  
ものであるとはいえないが、そのことを指摘すると麗ちゃん  
がまた怒り出すかもしれないので、余計なことは言わないよ  
うにしている。

問四 「目頭を押さえているようだった」(——線部C)とあり  
ますが、ここでの母の心情の説明として最も適当なものを、  
次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 母である自分に対して、労いの言葉をかけたうえで、晩御  
飯の支度を始める娘の姿を見て、娘の成長を感じ、感動して  
いる。
- 2 苦手な教科でよい成績をとったのに、安易に喜ばず家事を  
手伝う娘の姿を見て、頭のいい子に育ったと、感動の涙を堪  
えられないでいる。
- 3 母である自分に対しても、相手が求めている返事や振る舞  
いを察したうえで応答する娘の成長した姿を見て、感謝の涙  
を堪えられないでいる。
- 4 娘がいつのまにか、料理を一人で作ることができるしっか  
りとしたいい子に成長していると気づき、感動している。

設問は、裏面に続きます。

問五 「胸が高鳴った」(——線部D)とありますが、この場面での「私」の心情についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 テストでいい点数をとっただけでなく、家事を手伝った自分へのごほうびとして、遠くへ出かけることを思いつき、胸を躍らせている。
- 2 自分へのごほうびとして、未知の場所に出かけることを思いついたが、実際に路線図を見たことでその想像がより一層膨らみ、心を弾ませている。
- 3 両親に嘘をついて遠くに出かけることは同級生の女の子たちがみんなやっていることであるため、自分もやってみたいと心を躍らせている。
- 4 路線図の水色の線が、紙からはみ出して遠くへと延びているように見えたことで、現実には存在しない路線図の先にある場所の様子を想像し、胸を弾ませている。

問六 『やっぱり私は「マウス」だなあ』(——線部E)とありますが、これはどのような意味ですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 実際に行動することなく、路線図を見ながら遠出をすることを想像するだけで胸が高鳴る自分は「内気な女の子」であるという意味。
- 2 遠出の想像をしていたことが両親にはお見通しなのではないかと悲観的に想像してしまう自分は「臆病者」であるという意味。
- 3 同級生の進んだ女の子たちが当たり前のようにやっていることとでさえできない自分は「内気な女の子」であるという意味。
- 4 両親に内緒で遠くに出かけることを考えただけで、緊張して怖気づいてしまう自分は「臆病者」であるという意味。

問七 「m……m……」(——線部F)とありますが、「私」が辞書を引いている場面からわかることとして適当でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 小学五年生で、同級生と比べても体が小さい「私」にとって、大きな英語の辞書は扱いづらいものであるということがわかる。
- 2 以前に叔父さんから聞いた「マウス」の意味を忘れてしまったわけではないが、「マウス」の意味を改めて確認したいと思い、辞書を引いたということがわかる。
- 3 英語の辞書において、「マウス」という単語は、序盤に収録されているものではなく、単語を見つけることが大変だったということがわかる。
- 4 「私」は英語が堪能であるとは言えないため、簡単な「マウス」という単語を調べることに、時間がかかったということがわかる。

設問は、次の用紙に続きます。

問八 「左手の路線図を、もう一度強く握り締めた」(——線部 G) という表現について、中学生の S さんたちは話し合いを通して考えることにしました。次に示す【話し合いの様子】の I、II に入る言葉として最も適当なものを、後の【選択肢】の中から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

【話し合いの様子】

S さん 「路線図」を「もう一度強く握り締めた」た「私」は、どんな気持ちだったのだろうか？

U さん 「握り締め」という行動をとるのは一般的に、 I  II 時や  II 時とか、色々あるよね。

M さん 私はこの表現が気になって、文章の続きを読んだけど、この後は「私は暗いうちから部屋で身支度をし、お正月にもらったお年玉を全て財布に入れた」となっていたよ。

A さん なるほど。ということは今回の「もう一度強く握り締め」た「私」は、 I  II のだと考えられるね。

S さん あと、一つ気になったのだけど、左手の路線図を握り締めるのは、これが初めてではないね。

U さん ほんとだね。一回目に「握り締めた」時は、どんな気持ちだったのかな。

M さん それは、さっき U さんが言っていたように  I  II だと思う。

A さん そう言われればそうだね。本文の表現からもそのことがわかるね。

【選択肢】

- 1 苛立ちを感じた
- 2 出かけることに決めた
- 3 激しく動揺した
- 4 自分の思いを固めた
- 5 諦めの思いを持った
- 6 未来に希望を抱いた

問九 本文の内容・構成・表現の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 一人称の語りによって物語が展開されることで、年齢のわりに大人びた「私」の考え方が客観的に描かれている。
- 2 台詞以外の部分はすべて過去の形で表現されることで、この物語が大人になった「私」の回想であることがほのめかされている。
- 3 実際の発言には「」を、心中の言葉には( ) が付されることで、会話文と心中の言葉がはっきりと分けられている。
- 4 物語の題名である「マウス」をはじめとして、本文中でカタカナ語が多用されることで、英語学習に熱心な「私」の様子がいきいきと描かれている。
- 5 「私」の想像した内容が色彩豊かに表現されることで、「私」の小学生離れた特異な感性が印象づけられている。
- 6 「私」と登場人物との会話が口語調で表現されることで、その場の雰囲気がありありと表現されている。

